

自己点検自己評価報告

No.9

R7.3.3 1

令和6年度は「保育者同士の協力・連携」「組織の一員としての在り方」について本園の保育者で自己点検評価しました。4月と2月に実施し、3月の学園理事会で報告をして意見をいただきました。

1回目は20の点検項目で「していない」と意見があった項目について、「していない」原因を探り改善点を協議しました。2回目は1回目に実施した改善項目〔1〕～〔9〕について自己点検評価しました。

〔1〕 クラスに関係なく、その場にいた教師が適切な言葉がけや対応をしている

- ・その場にいた保育者が言葉をかけ、対応をして情報共有できている。
- ・子どもの名前を呼ぶ時は、敬称をつけ呼び捨てはしないことを、保育者同士で共通理解している。しかし、遊んでいる時は愛嬌のある名前ですんでしまうことがあり、子どもがいやがる時は呼び方を変えるなど、状況に合わせた保育者の対応をしていくようにする。

〔2〕 クラスの環境構成などについてもお互いにフランクに意見を交換している

- ・遊びの会議で何に夢中になっているか知れたり、知らなかった一面を知れたりすることができた。会議を通して、「こうしてみても？」と提案をしたり、環境構成に目を向けたりすることで深く話ができていくように感じる。
- ・遊びの会議以外にも保育時間外にフランクに話しができた。
- ・今後は学年会議でも話し合いの時間を設けるようにしていく。

〔3〕 幼児のことに常に関心を持って保育者同士で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有している

- ・保育担当者が交換する時に、子どもの様子を伝え引き継ぐことができている。遊びの会議でも保育者同士共有していると思う。しかし、教職員全員と情報を共有することは難しいため、子どもの成長やよい所を見つけた時に伝え合うことで、違った見方もあることに気づけるのではないかなと思う。

〔4〕 教職員全員が、すべての幼児についてある程度理解しているようさまざまな工夫をしている

- ・“すべて”は難しいが、職員間でエピソードトークが増えてきたように思う。朝の保育やにじぐみ保育で担当学年以外の学年を担当した時に気づいたことを伝え合うようにしていく。

〔5〕 指導上配慮を必要とする幼児については、園の教職員全体で特によく話し合い、共通理解をもって、対応するようにしている

- ・教職員全体では職員会議や遊びの会議で情報を共有できている。
- ・園内研修やケース会議で話し合える場を設けているが、専門の先生の意見もお聞きできる機会を設けていくようにしたい。
- ・会議に出席できない職員は、会議の内容をしっかりと確認したり、伝え合ったりしていく。

〔6〕 他のクラスや異年齢の幼児たちと触れ合うようさまざまな工夫をしている

他のクラスや異年齢の幼児たちとかかわれるよう、さまざまな保育の形態を取り入れている

- ・にこにこ給食(二つの学年一緒に給食を食べる)や朝の遊びの時間、芋煮会や餅つき会、秋祭り、他の学年と一緒に散歩するなどの活動で交流できた。
- ・異年齢児交流は子どもの発達段階に応じて前期は難しかったが、後期になり遊びが活発になることで行き来できるようになった。

- ・今後も異年齢児の触れ合いができるように、年度当初に計画し交流しやすい方法や時期を検討していきたい。

[7] 会議や打ち合わせは時間を厳守している

- ・次回の会議まで話し合う内容の意見をまとめておくことで、時間を短縮できた時もあった。
- ・会議終了時間を決めて終わるようにしていたが、延長してしまう時もあった。会議をスムーズに進めるための事前準備が必要だと感じる。

[8] 会議のときは自分の意見や質問を前もって考えている

- ・意識して会議に臨んでいつが、その場で思いついてしまうこともある。

[9] 当番や役割による仕事は確実にこなしている

- ・提出物は声がけすることによって、期限を守るようになった。当番や役割も行えているが、今後もお互いに声をかけ合ったり、ホワイトボード、放送などで知らせていくようにする。